

因幡堂平等寺いなばだうびやうとうじは松原通鳥丸まつはらとうりゅうまるにあり、寺務は天台聖護院御門主てんだいしやうごもんぬし、寺僧は真言宗なり。本尊藥師如来は立像にて長六

尺二寸碁盤の上に在給ふ、脇士は日光月光十二神八菩薩を安置す。伝記に曰、此本尊天竺祇園精舎てんちくぎをんしやうじや四十九院の内東北の

角療病院の本尊、等身梅檀木の像にして、釈尊しやくそんみづから刻給ふ聖容なり。かの伽藍破壊に及んとするの時東方さして飛

去給ふ。然に一条院の御宇長徳三年、因幡国賀露津いなばのくにからうづつの海面に夜々光あり、国司橘行平卿漁人こくしたちばなのゆきひらきたうに命じて網をおろさしめ

海底を潜しむるに、光明赫奕たる藥師仏を引上奉る。其後七年を経て長保五年四月七日に、行平卿の居館鳥丸高辻たかつちに忽

然として飛来し給へり。〔後光台座は因州いんしゅうに止れば座光寺と号して今にあり〕則館を仏閣に造りて安置し給ふ、今の因

幡堂ばんだうこれなり。本願は行平卿の息光朝禪師ゆきひらのそくくわうてうなり、則寺務とす。承安元年四月八日高倉院たかくらより勅額を給ひ平等寺と号す、

永暦二年には後白川院ごしら此所に幸し給ふ。今の堂は足利義教公あしかゞよしのりの再建なり、橘行平卿の影像是堂内西の間に安置す、東の

間には夜叉神やしやを安ず。〔後堂に井戸あり火災の用なりとぞ〕鎮守は後白川帝の院宣によつて十八所の神を勧請す。〔後に

神託ありて蛭子神一所を加ふ、故に十九所なり〕観音堂の本尊は慈覺大師じかくの作、愛染明王あいぜん弘法大師を堂内に安置す、鐘

堂は本堂の西にありて常に注連しめを張なり。〔毎年二月十九日は初鐘供養ありし日なり、此日に注連を引事これ恒例とぞ〕

執行藥王院には大黒天を安置す、〔当院は祇園御旅所ぎをんおたぎせうしやう少将井社を兼帯す、毎年六月七日此所より児出る〕歡喜天不動明

王を安ず、桃の坊柳坊には稲荷氷室秋葉の三社を祭る、又虚空藏を安置す、西之坊には金毘羅を安置す、桂芳院けいはうには稲

荷社あり、又不動役行者を安ず、長伯寺ちやうはくじは裸形阿弥陀仏を安置す、慈覺大師二条の後の願により女人成仏の証に作り給

ふ、金蓮寺こんれんじの阿弥陀あみだ仏は春日の作なり、〔京極誓願寺せいがわんじと同体なり〕又粟島明神あはしま妙見菩薩を安ず、角の坊には稲荷大明神鎮座す。

夫当寺の本尊は日本三如来の〔信濃善光寺しなのぜんくわうじ、嵯峨釈迦さあがしや仏〕其一にして、釈尊在世の尊像なり。御戸開ある時は勅会の法事音楽等ありて嚴重たり、代々の天子御厄年に当らせ給ふ年は、毎月勅使参向ありて御祈祷あり、是を薬師詣といふ。